

## 第7章 結論

---

### 7-1 各章のまとめ

#### 第2章

近年、観光形態が「大量輸送・周遊型」から「個人志向・滞在型」へと変化し、観光客の志向が地域密着型の旅行へと向けられ、地域住民が地域資源や歴史文化を来訪者に伝える「ホスト」という役割を担うようになってきた。まち歩きや歴史散策が流行し、地域住民のホスト化が進行する中で、注目されているのが、「まちかど博物館」である。

この章では、まず、本研究で扱う「ホスト」の位置づけを行い、次に、全国における「まちかど博物館」の事例整理と、「まちかど博物館」に関する既往研究の整理を行い、「まちかど博物館」における現在の課題として、『継続性』というキーワードを導いた。

#### 第3章

この章では、研究対象として選定した東京都墨田区の「小さな博物館」について、「墨田区の歴史」なども踏まえつつ概要をまとめた。また、「小さな博物館」の継続性を解明するための調査方法と分析方法をまとめた。

#### 第4章

この章では、「小さな博物館」の時代変遷と主催者である墨田区の「小さな博物館」への関わり方について把握し、各博物館の継続性の背景や周辺環境について把握した。また、ヒアリング対象とした1993年以前に開館した博物館14館に関する統計データと、各博物館の概要をまとめ、全体的な特徴を把握した。

#### 第5章

この章では、1993年時点で開館していた24館について、1993年から2005年までの経過と現状をそれぞれ整理し、継続している館と、閉館している館（閉館型）とに分類した。また、継続している館に関しては、世代交代をまだ経験していない館（館長継続型）と、世代交代を経験している館（館長交代型）に分類した。分類項目別に、各博物館の事象の変化や意識変化について考察を行ったところ、「小さな博物館」の継続性には、館長意識の継続性と世代交代という2つの課題があることを把握した。

#### 第6章

この章では、まず、館長意識の継続性に関する分析を行い、館長意識の継続における要件について考察を行った。この分析では、先行研究との比較を行うため、先行研究で用いられた「役割形態類型」により、館長継続型に該当する9館を分類し、それぞれについて分析を行った。次に、世代交代に関する分析を行い、世代交代における要件について考察

を行った。この分析では、博物館の構成要素である「ヒト」・「モノ」・「バ」の3つの要素の違いによる「構成要素類型」により分類を行った。「ヒト」「モノ」の軸と、「バ」の軸の2軸を用いることで、個人/わざ型、組織/わざ型、個人/コレクション型、組織/コレクション型の4類型に各博物館を分類することができた。この4類型それぞれについて分析を行い、世代交代における要件について考察した。

## 7-2 「小さな博物館」の継続性の要件

### 7-2-1 時代背景との関連

今回ヒアリング調査の対象とした14館のうち、13館が第期【立ち上げ期】に「区のためになるのなら(能面:05)」「おもしろそうだったから(木造建築:05)」といった理由で、開館した博物館であり、<試みるタイプ>の館長である。第期【停滞期】では、「小さな博物館」から「マイスター」活動へと区の政策の中心が移ったことで、結果的に、各はく博物館の自立が進んだと考えられる。ここで言う、自立とは、区の先導や支援を頼らず、各博物館において、館長の主体性や能動性、オリジナリティが創出されることである。

### 7-2-2 初期設定との関連

「まちかど博物館」を全国に先駆けて始めた事例でもある墨田区「小さな博物館」は、開設初期に慎重な設定を行っている。中でも、館長へ運営費として月に2万円の給付と、開館日や開館時間の自由度は、館長からも「補助金は有難い。(小林人形:05)」や、「館長の時間に合わせてくれ、ということだからいい。影響がないように自分で時間を作っている。(合金鋳物:05)」というコメントもあり、初期設定が館長の生活とのバランスにうまく影響を与えていると考えられる。

### 7-2-3 館長意識の継続性

93年の館長のコメントと05年の館長コメントを比較分析することで、館長の専門分野の違いによって館長意識の継続要件に違いが見られた。館長の専門分野が、『職業』に関係する場合は、館長は来館者に対して、歴史文化の「伝達」や製品の「普及」することを目的意識として持つ傾向にあり、博物館は情報を発信し、来館者が学習する場所として機能している。一方、『趣味』に関係する場合は、館長は純粋に来館者と趣味について共有し、共に「楽しみ」や「満足」を感じることを目的とする傾向にあり、博物館は趣味を発表し、来館者と共有する場所として機能している。つまり、館長意識を継続させるためには、館長の目的意識を理解し、その目的の内容やレベルに合わせて、目的を達成できるような空間や来館者との交流形態を個別に作り上げていくことが重要である。

### 7-2-4 世代交代

博物館を継続させるためには、博物館の構成要素である「ヒト」・「モノ」・「バ」の3つ

の要素の『存続』が条件であることが分かった。世代交代の際には、この 3 要素の違いによって 4 類型に分類でき、類型別に引継ぎの仕方の違いが見られた。個人ノわざ型は、館長が持つ「わざ」そのものが博物館の醍醐味であり、「モノ」よりも「ヒト」の引継ぎが重要である。後継者となる息子や弟子が鍵を握っている。組織ノわざ型も、同様に、「モノ」よりも「ヒト」の引継ぎが重要である。しかし、組織の場合は「ヒト」を「バ」から補完することができ、「ヒト」の引継ぎには対応しやすい。個人ノコレクション型は、「モノ」を見ることが醍醐味であり、「ヒト」よりも「モノ」の引継ぎが重要である。館長の仕事に関係する「モノ」であれば、家族が引き継ぐことができるが、趣味に関係する「モノ」の場合は、館長一代限りで閉館することが多い。組織ノコレクション型は、「モノ」が組織の所有物であることが多く、「バ」が存続する限り閉館する可能性は低い。「ヒト」は組織の中で担当者が交代しながら引継ぎが行われていく。

また、世代交代の際には、組織の倒産や解散によって個人型へ移動するといった、4 類型上での移動が見られた。今後、個人での管理では限界があり、個人型から組織型へ移動したり、職人の死後、その職人の作品を展示することになれば、わざ型からコレクション型へ移動したり、いろいろなパターンが考えられる。このように 4 類型上の移動をもっと活発に行えば、博物館の継続性はさらに高まると考えられる。ただし、そのためには、業界や地域においてネットワークを作っていく必要がある。

### 7-3 今後の課題

本研究では、1993 年～2005 年の 13 年間における各博物館の実際の行動の変化に関するデータが得られなかったため、館長意識の傾向を見る際に、実際に館長意識の継続性に影響を与えた要因について把握することができなかった。今後、このような研究をする際には、実際に館長が受けたサポートや来館者との交流、そしてそれに対する館長の行動の変化などを踏まえた分析が必要である。

また、本研究ではヒアリング対象者が少人数だったため、館長一人一人を詳しく分析したが、類型別に傾向を見る際に、該当数が 1 館や 2 館のみでは、その類型における特性とは言えない。よって、類型別に分析をする際には、調査対象を多くすべきである。